

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 2022年4月1日
(2)調査対象期間 2022年1月～3月期の実績および2022年4月～6月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業・食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業・食品業部会	30社	16社	53.3%
水産業部会	30社	14社	46.7%
機械工業部会	30社	14社	46.7%
建設業部会	30社	16社	53.3%
観光・サービス業+諸業部会	30社	19社	63.3%
合計	150社	79件	52.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－前期よりやや悪化するも、回復に向けた動きも－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2022(令和4)年1月～3月)の全業種平均業況判断DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は**▲10.1**となり、前回調査時(R3.10月～12月:以下、前期)の**▲6.9**よりも若干悪化しましたが、前年同期(R3.1～3月 **▲29.0**)と比べると**5期連続で改善**し、マイナスながらも回復に向けた動きが見られています。

部会別にみると、商業・食品業[前年DI値**▲33.3**→**今期▲56.3**]、水産業[前年DI値**5.0**→**今期42.9**]、機械工業[前年DI値**▲10.5**→**今期21.4**]、建設業[前年DI値**▲38.1**→**今期12.5**]、観光・サービス・諸業[前年DI値**▲63.7**→**今期▲52.6**]となりました。

今回の調査では、新型コロナウイルスの感染拡大による「まん延防止等重点措置」が1月27日から3月21日まで発せられていたことから、前期に引き続き人流によって成り立つ、飲食、宿泊、交通、観光等の業種と、それらとの取引が多い商業・食品業が大きな影響を受けています。

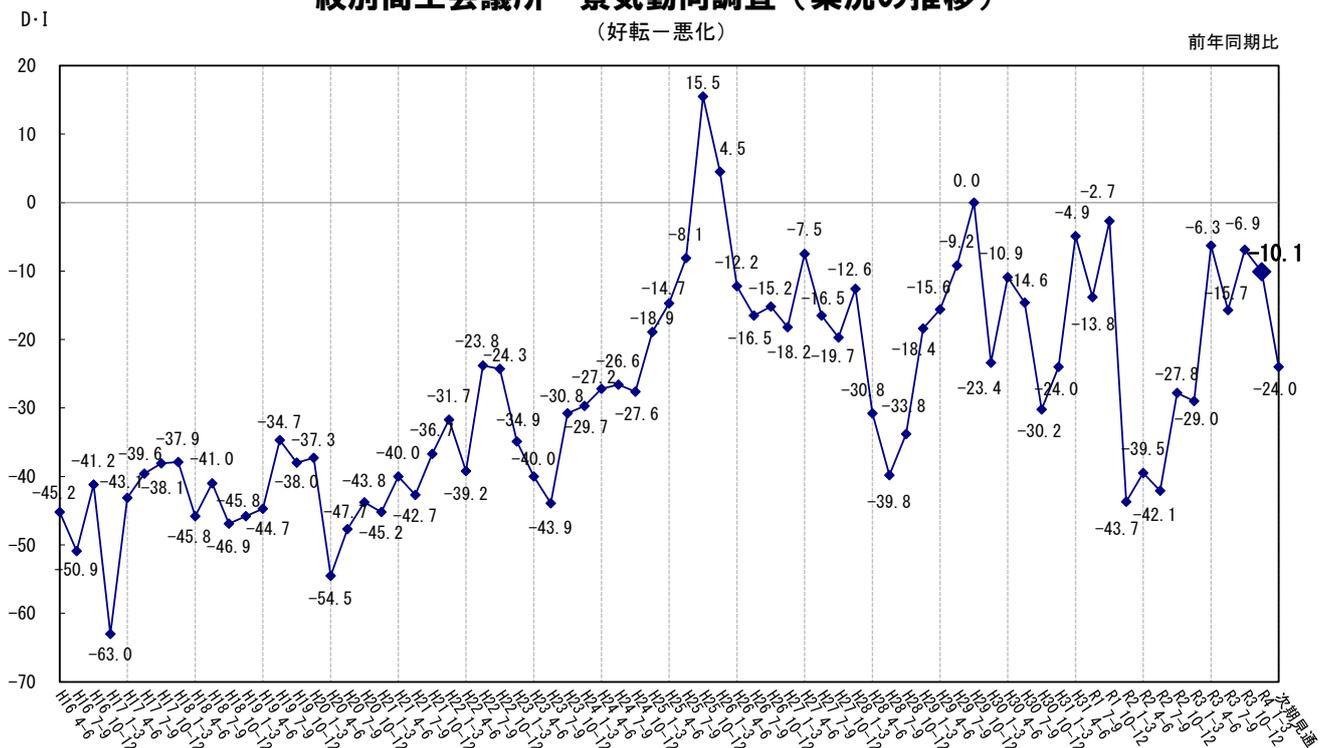
一方で、水産業・機械工業・建設業では、前年同期と比べ大幅に業況が改善しており、業種により回復の度合いが違う「**K字型回復**」が、当市においても顕著に現れています。

特に水産業は前期に続きプラスで推移し、また、市内で大型工事を控える建設業では**50.6**ポイントの大幅な回復となるなど、市内経済の回復へ向けた“けん引役”が期待されるところであります。

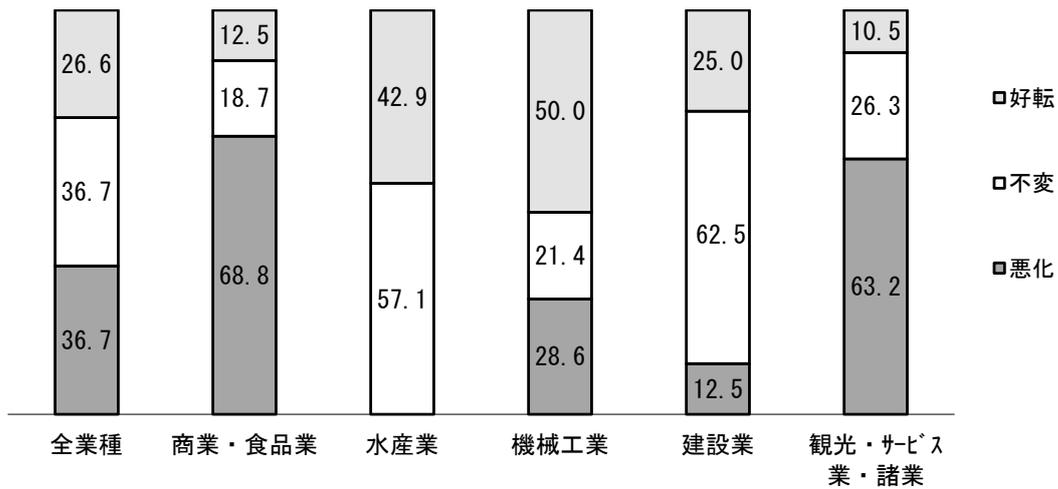
来期(2022年4月～6月)については、**業況判断DIが▲24.0に悪化する**との慎重な予測となっています。

日常生活の回復が進み、再開した春のイベントや道民割等の需要喚起策で客足が戻ることを期待する観光・サービス業は、依然マイナスながらも**37ポイント**回復する見込みとなっていますが、業種を問わず対ロシア制裁や円安の急伸により、原油等の資源価格や原材料価格等の高騰が加速化したことが経営を圧迫しており、加えて価格転嫁の遅れも収益回復の足かせとなり、先行き見通しの不透明感が強くなっているものと思われます。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、これまでの「従業員・熟練従業員の確保難」に代わり、「原材料・材料価格の上昇」を訴える声が多くなっています。

■部会別の動向

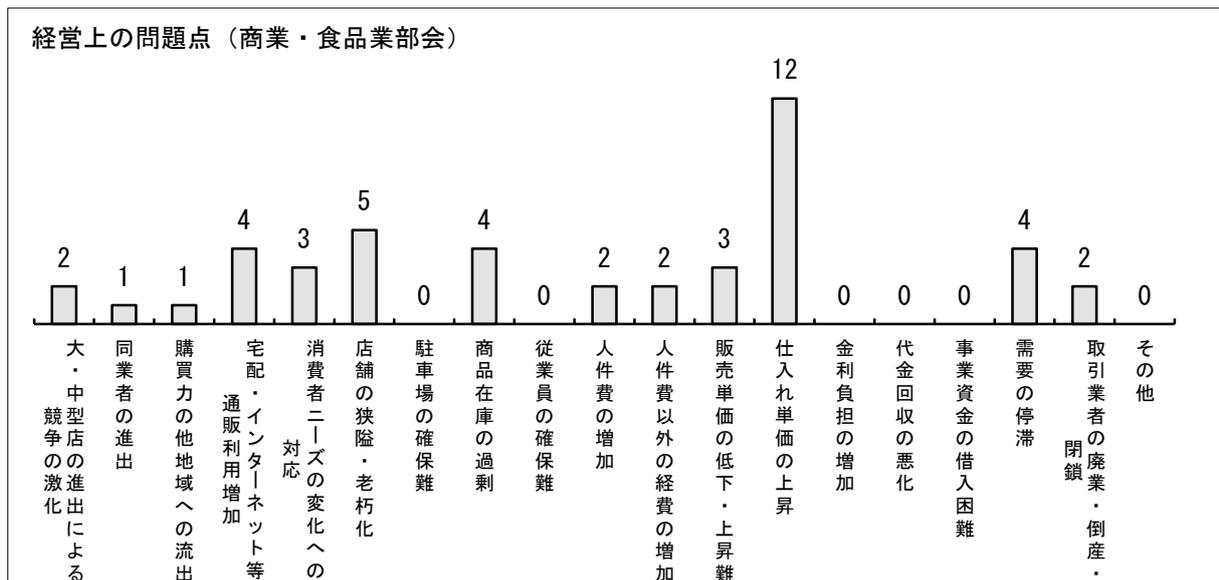
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲56.3（前年DI値▲33.3、来期見通し▲68.8）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年同期と比べ23.0ポイントの悪化となりました。「まん延防止等重点措置」の発令により、観光関連業・飲食店等を主な取引先としている卸小売業は大幅な売上減となり、国や道に対し支援金の支給対象業種拡大を求める声が寄せられています。

また、「まん延防止等重点措置」の解除後も、消費回復に向けた動きが鈍いため、消費喚起策として昨年実施された「プレミアム付商品券」の再販を望む声もみられました。次期はさらに悪化するとの回答が多く、経営上の問題点として「仕入単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・営業用車両の購入に対する国や市の補助があれば良い。プレミアム商品券を再度やって欲しい。（燃料小売業）
- ・コロナ感染者数の増減で売上変動（雑貨等小売）

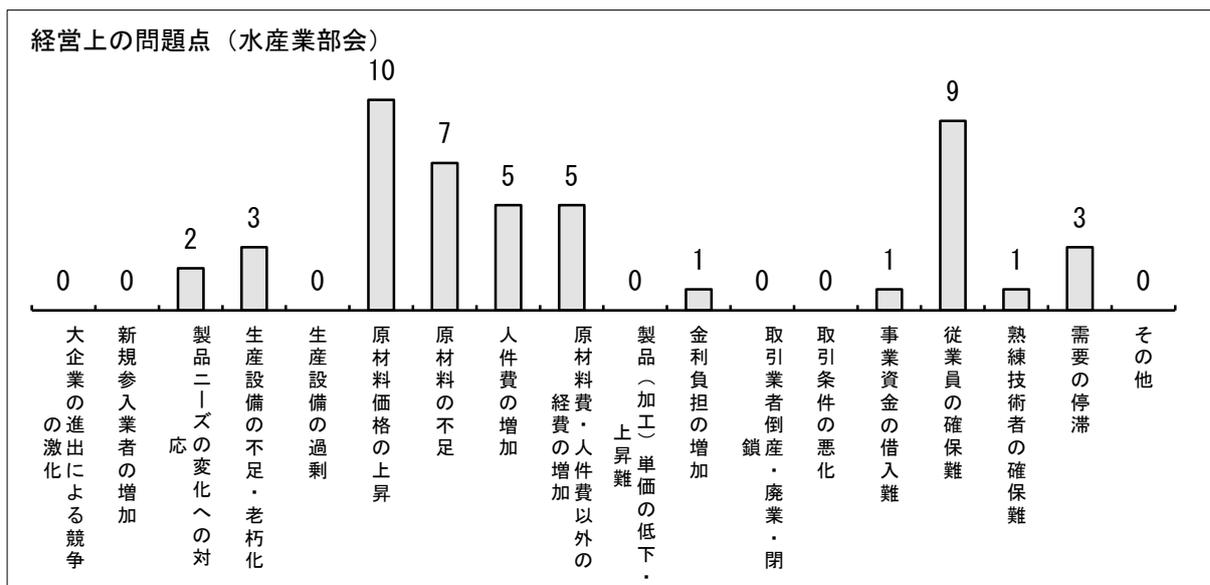


【水産業部会】 [業況判断 DI 値（前年同期比）**42.9**（前年 DI 値 5.0、来期見通し 0.0）]

業況判断 DI 値（前年同期比）は 37.9 ポイント回復しました。紋別市へのふるさと納税が依然好調であり、紋別産品が注目される機会も増加しています。一方で、不確定要素が多い原料確保への懸念や、外国人実習生の入国制限による人手不足を訴える声が依然として多くなっています。次期の業況見通しは 0.0 となり、盛漁期を迎えて今期同様の業況が期待されています。経営上の問題点としては「従業員の確保難」に加え、「原材料価格の上昇」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・原料確保は、天候・漁獲量等不確定要素が大きい。需給バランスによる価格変動やロシア産水産物の動向、動力光熱費なども懸念材料である。（水産加工業）



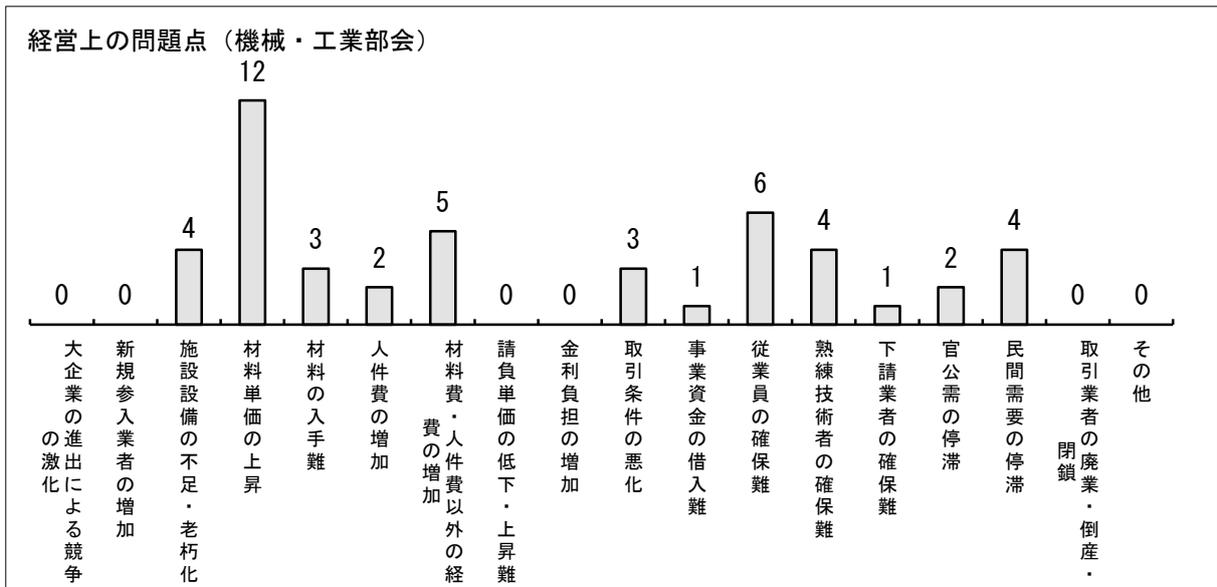
【機械工業部会】 [業況判断 DI 値（前年同期比）**21.4**（前年 DI 値▲10.5、来期見通し▲35.7）]

業況判断 DI 値（前年同期比）は、31.9 ポイント回復しました。堅調な一次産業や建設業にけん引される形で業況が上向いたと回答する企業がある一方で、自動車関連業では世界的な半導体不足による納車の遅れや原油価格の高騰、ドライバーの高齢化による自動車離れなどが業況の回復を遅らせている、との懸念が寄せられています。

次期業況見通しは▲35.7 と大幅に悪化する見通しとなっています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」を訴える声が特に多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・材料の値上げが激しい。流通の末端なのでなかなかお客様への商品価格へ転嫁できない（資材等製造）
- ・今期の実績は若干増加傾向でしたが、反面、人手不足のため搬出作業にアルバイトやシルバー人材センター等の人件費が増加したため、利益に影響しております。売上－人件費＝アンバランス（建設業）
- ・同業者の高齢化などによる業界の衰退（鉄工業）
- ・自動車業界は高齢者による運転免許の自主返納や自然減に伴って顧客数が年々減少、また自動車メーカーでは半導体不足が続くと予測され、さらに中国でのコロナ禍により都市のロックダウン状況で部品の調達ができず、新車の納車遅れの解消ができず厳しい状況にあります（自動車小売・修理）



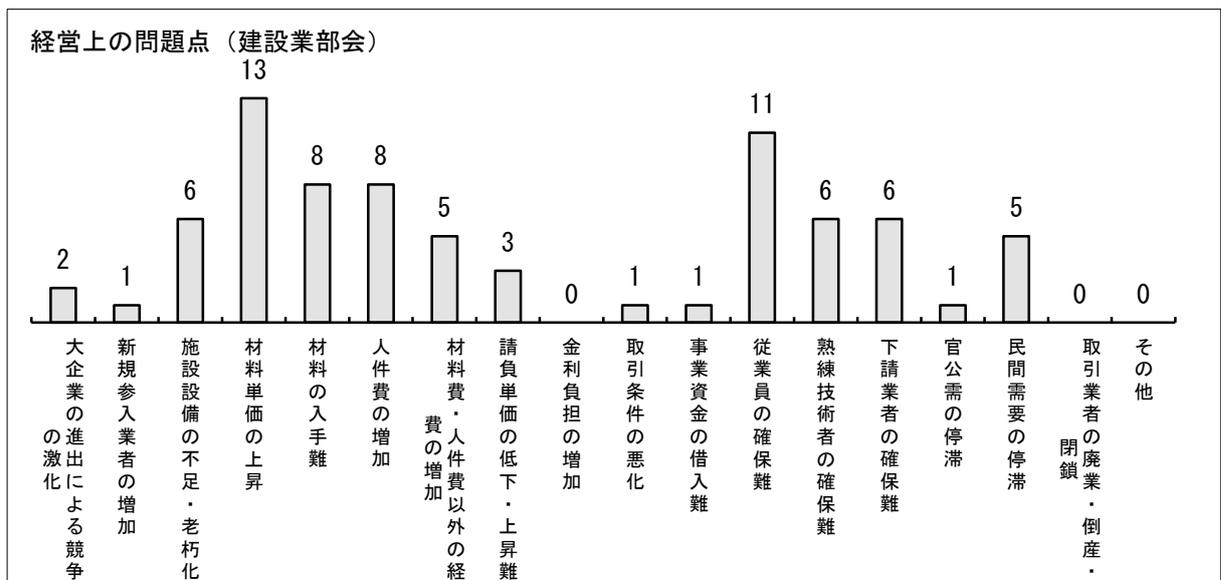
【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）12.5（前年DI値▲38.1、来期見通し0.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は50.6ポイント改善しました。前期（R3.10～12月 ▲6.2）と比較しても改善傾向が見られ、年度末を控えた公共工事や、紋別市の補助金を活用した店舗改装・設備投資などの民間工事が緩やかに持ち直している、との声が寄せられています。

一方で、建設資材価格の上昇や設備機器の納期遅れ・欠品に伴う工期長期化によるコスト増の影響が、懸念材料として挙げられています。次期見通しはDI値が0.0と横ばいの見通しとなっています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・紋別市の官公需工事の材料が他の市町村の業者に流れている（資材卸売業）



【観光・サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲52.6

（前年DI値▲63.7、来期見通し▲15.8）

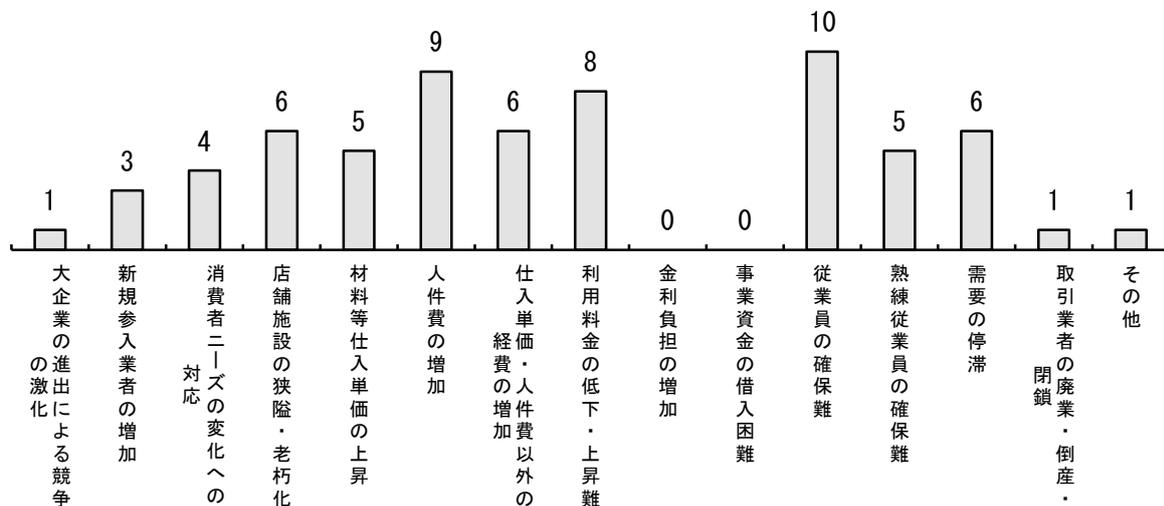
業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも11.1ポイント改善しましたが、依然として大幅なマイナスとなっています。54日間にわたる「まん延防止等重点措置」の発令に伴う客足減少や営業制限により、飲食や理美容業の業況が悪化しました。また、運送業とクリーニング業からは燃料費の高騰による負担増から、採算の悪化を訴える回答が多く寄せられています。

次期は業況DI値が▲15.8とマイナスながらも、3年ぶりに行動制限のない大型連休を控え、回復を期待する声が多くなっています。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」と「人件費の増加」を訴える声が多くなっており、防衛的な賃上げとなっていることも推察されます。

《業界の問題点等》

- ・一番の問題は本人も含め労働者の高齢化と戦力となる人材不足。これに尽きる。（飲食業）
- ・燃料費の高騰、運賃は上げられない（貨物運輸）
- ・コロナ感染が市内で発生している。発生源が不明なので市民の乗車率が悪い（旅客運送業）
- ・人件費高、原油高（クリーニング）

経営上の問題点（観光・サービス業・諸業部会）



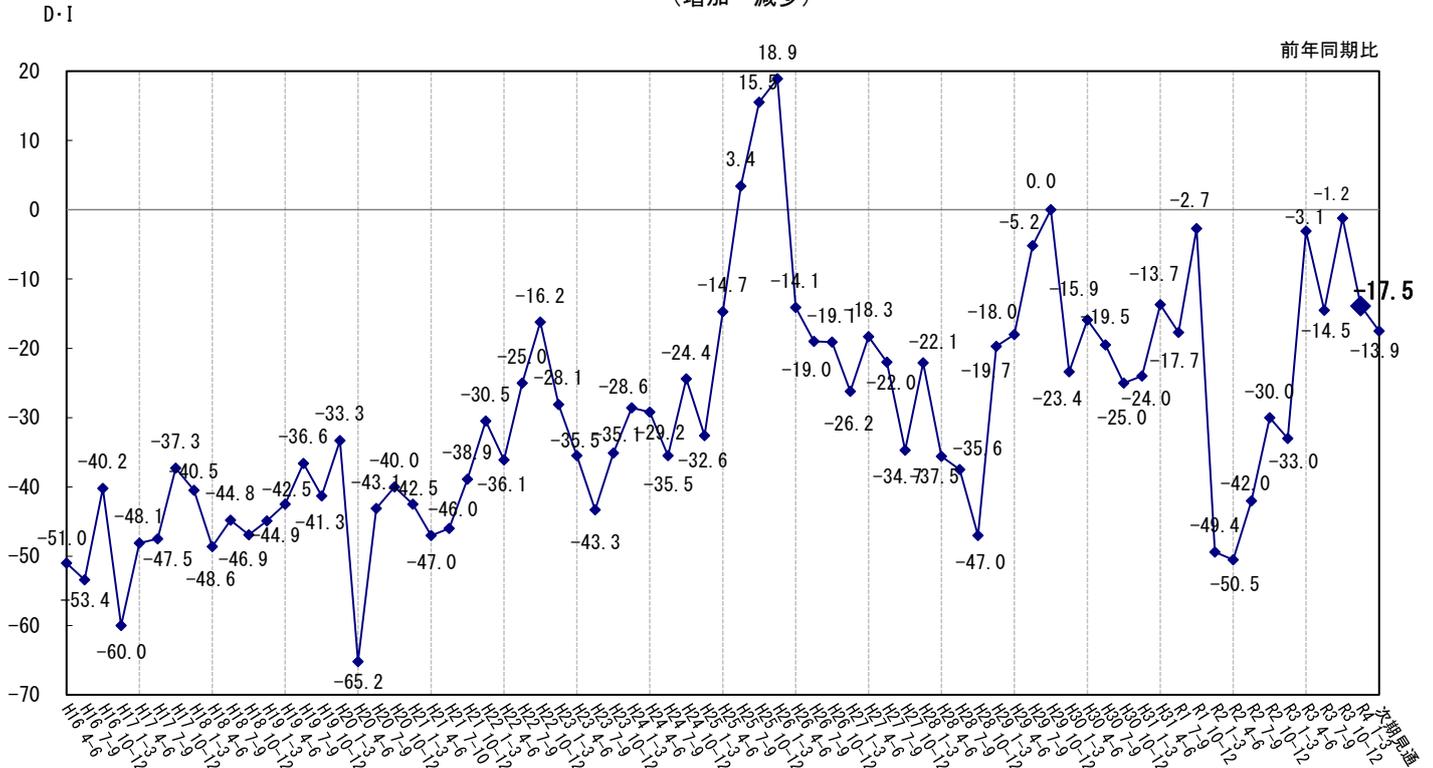
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

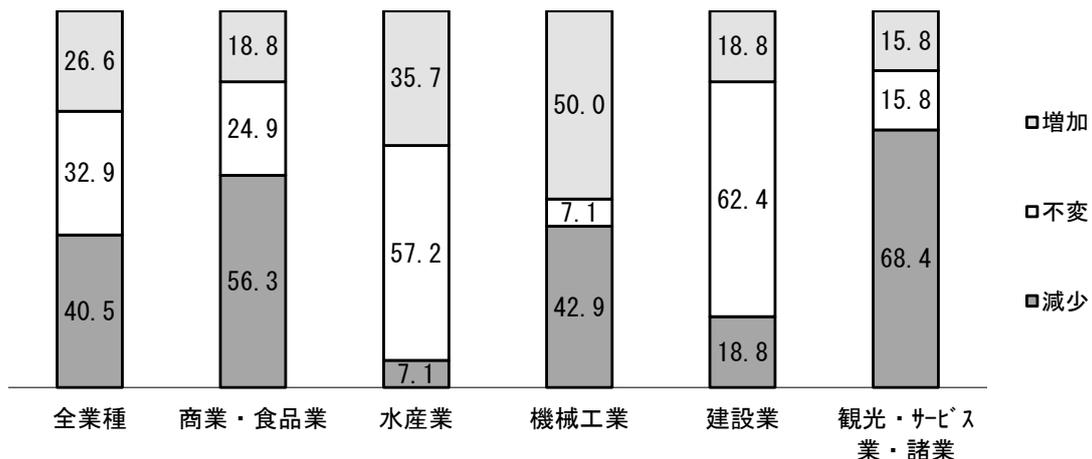
【前年同期比】（2021（令和3）年1月～3月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値▲13.9〔前年同期（令和3年1～3月期 ▲33.0）より19.1ポイント回復〕
前年同期比で5期連続改善するも、商業・食品業と観光・サービス・諸業は大幅減少。

〔部会別DI値〕

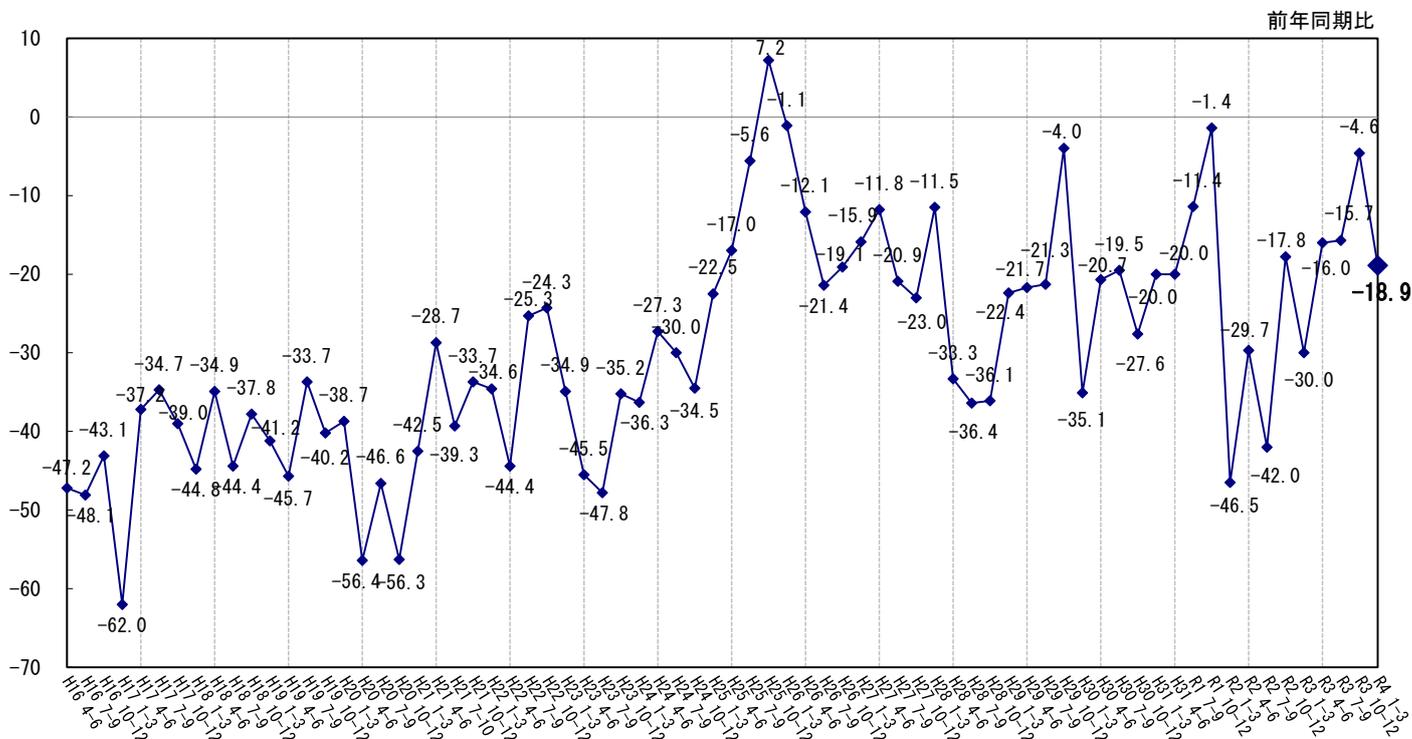
商業・食品業〔前年▲44.4→▲37.5〕、水産業〔前年0.0→28.6〕
機械工業〔前年▲15.7→7.1〕、建設業〔前年▲38.1→0.0〕
観光・サービス業・諸業〔前年▲63.7→▲52.6〕

(2) 今期の採算

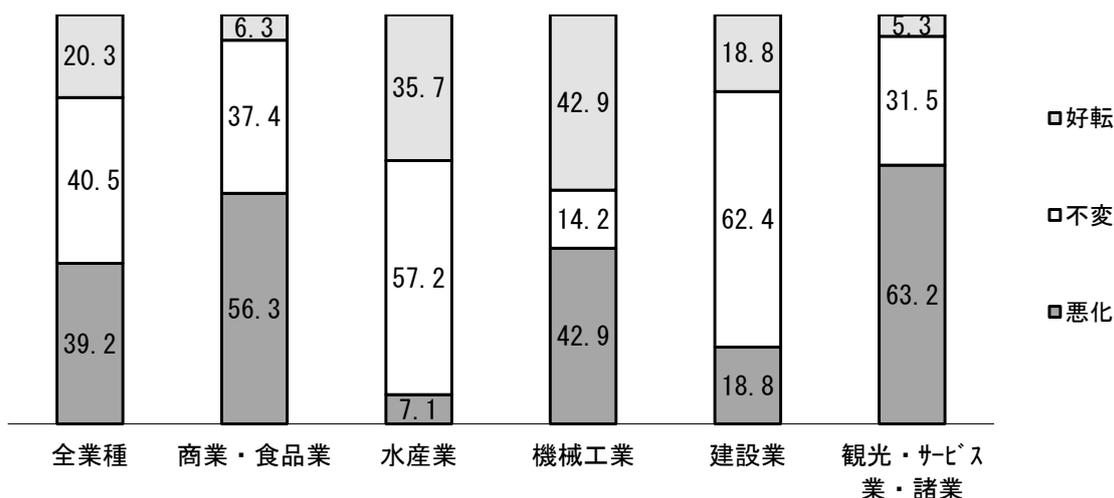
【前年同期比】(2021(令和3)年1月~3月期の水準と比較した今期の採算水準)

採算推移(全業種平均D・I)

(黒字-赤字)



今期の採算(前年同期比)

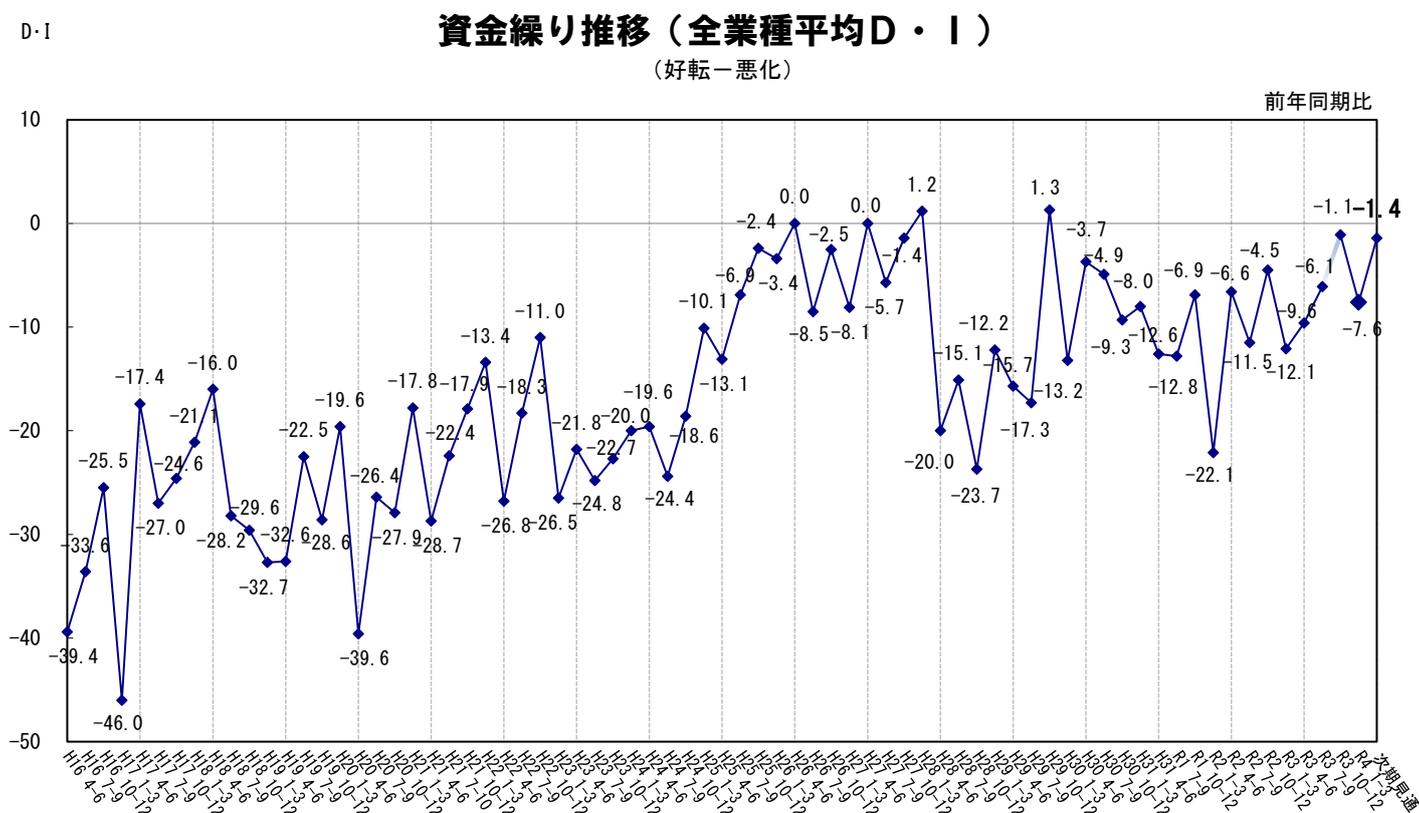


全業種平均でDI値▲18.9〔前年同期(令和3年1~3月期 ▲30.0)より11.1ポイント改善〕
水産業が大幅に改善。機械工業、建設業は不変も、観光・サービス・諸業は依然厳しい。

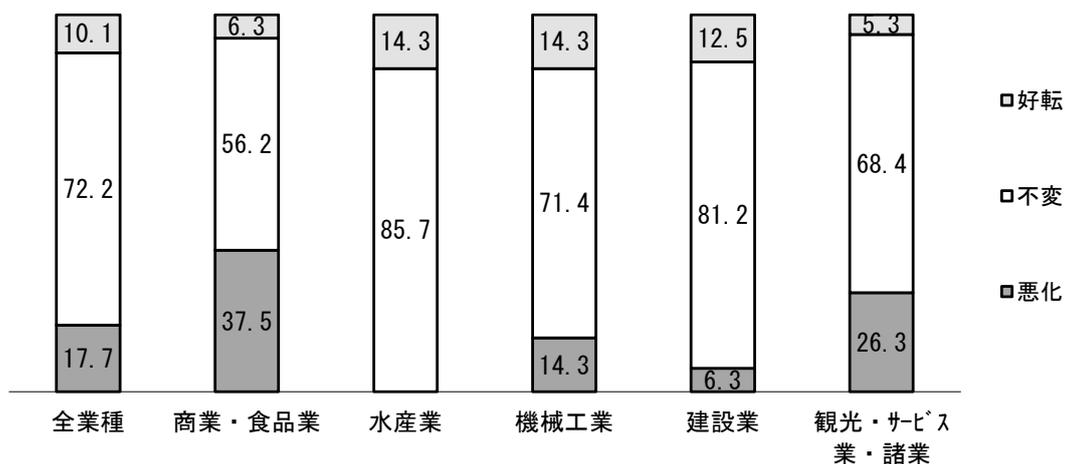
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲33.3→▲50.0〕、水産業〔前年▲15.0→28.6〕
機械工業〔前年▲10.5→0.0〕、建設業〔前年▲38.1→0.0〕
観光・サービス業・諸業〔前年▲50.0→▲57.9〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】(2021(令和3)年1月～3月期の水準と比較した今期の資金繰り)



今期の資金繰り(前年同期比)



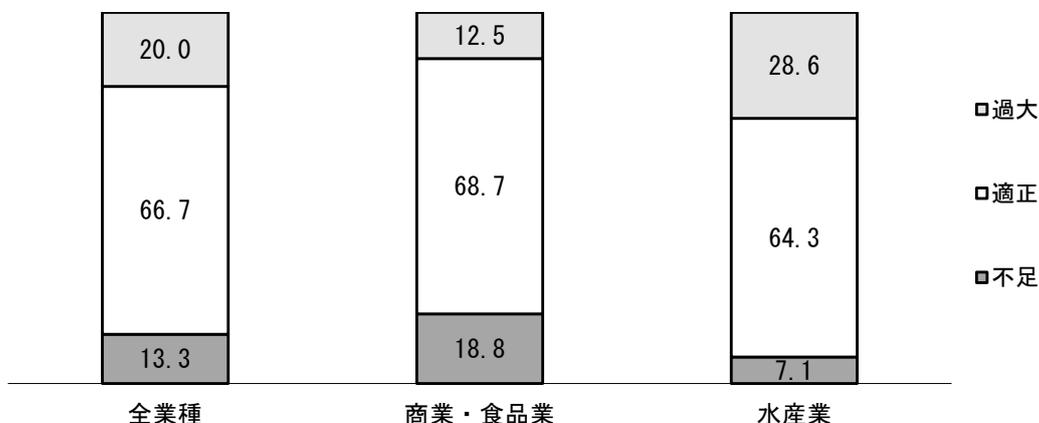
全業種平均でDI値▲7.6〔前年同期(令和3年1～3月期)▲12.1より4.5ポイント回復〕
 商業・食品業、観光・サービス業・諸業で悪化。その他の業種は好転または横ばい。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲0.0→▲31.3〕、水産業〔前年▲5.0→14.3〕
 機械工業〔前年▲16.7→0.0〕、建設業〔前年▲19.1→6.3〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲18.2→▲21.1〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】(2021(令和3)年1月～3月期の水準と比較した今期の在庫水準)

今期の在庫水準(前年同期比)



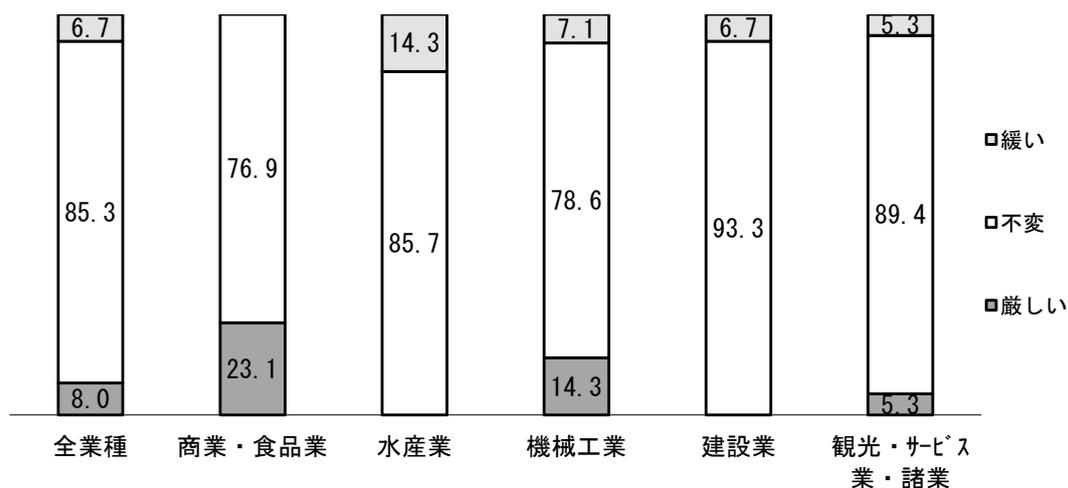
全業種平均でDI値6.7〔前年同期(令和3年1～3月期)▲10.6〕より17.3ポイント過大傾向〕水産業で21.4ポイントの大幅過大となった。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲5.5→▲6.3〕、水産業〔前年▲15.0→21.4〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】(2021(令和3)年1月～3月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出姿勢)

今期の金融機関の貸出姿勢

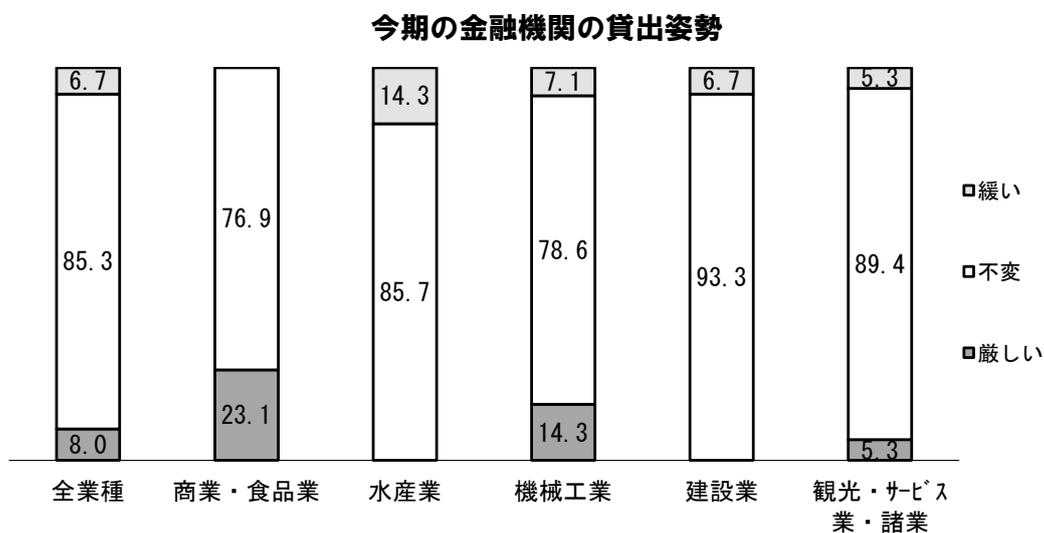


全業種平均で▲1.3となり、前年同期(R3.1～3月期 0.0)と比較しほぼ横ばいとなりました。

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年13.3→▲23.1〕、水産業〔前年0.0→14.3〕
 機械工業〔前年▲6.2→▲7.1〕、建設業〔前年▲5.5→6.7〕
 観光・サービス業・諸業〔前年0.0→0.0〕

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（2021（令和3）年1月～3月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

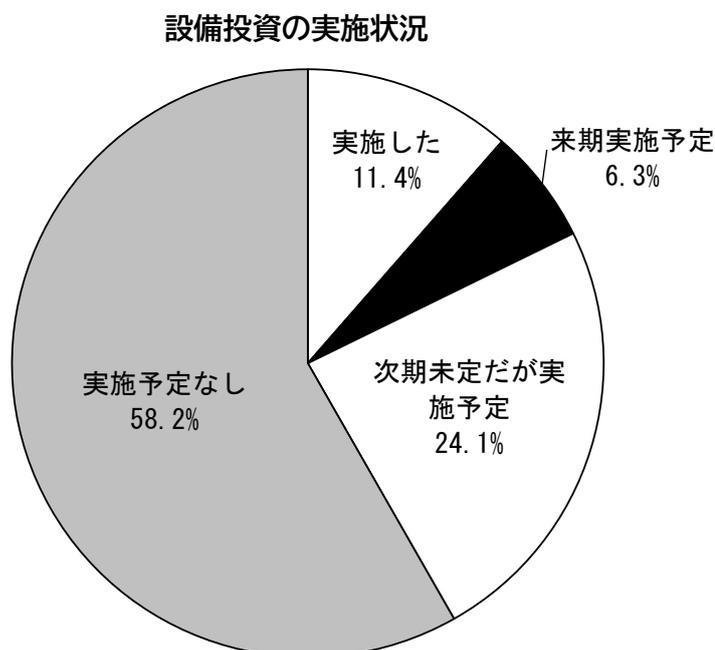


全業種平均で **1.3** となった。前年同期（R3.1～3月期 ▲5.6）よりも 6.9 ポイント上昇したが、基本的には大きな変動は見られない。

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年▲28.6→0.0]、水産業 [前年▲5.0→0.0]
 機械工業 [前年 12.5→14.3]、建設業 [前年 0.0→0.0]
 観光・サービス業・諸業 [前年▲9.1→▲5.3]

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

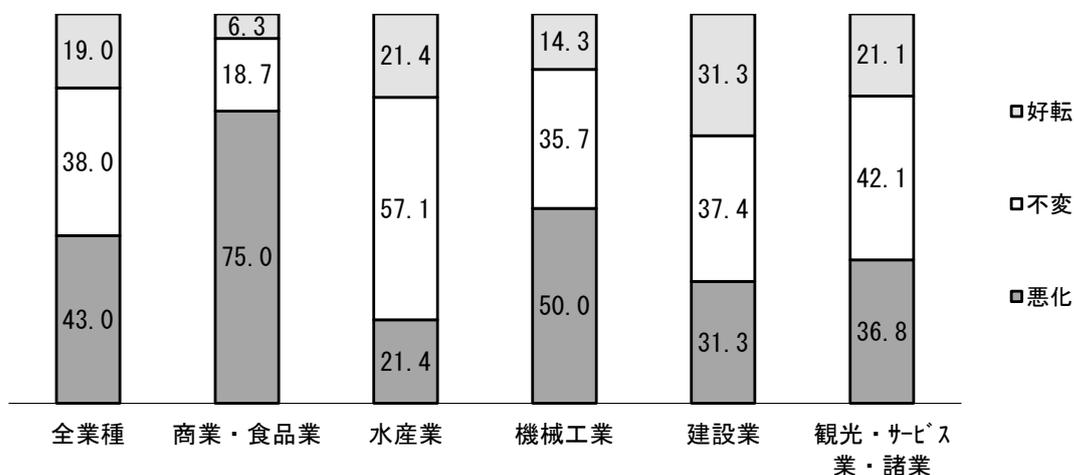


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】(2022(令和4)年1月～3月期の水準と比較した来期の業況見通し)

次期の業況見通し(今期比)

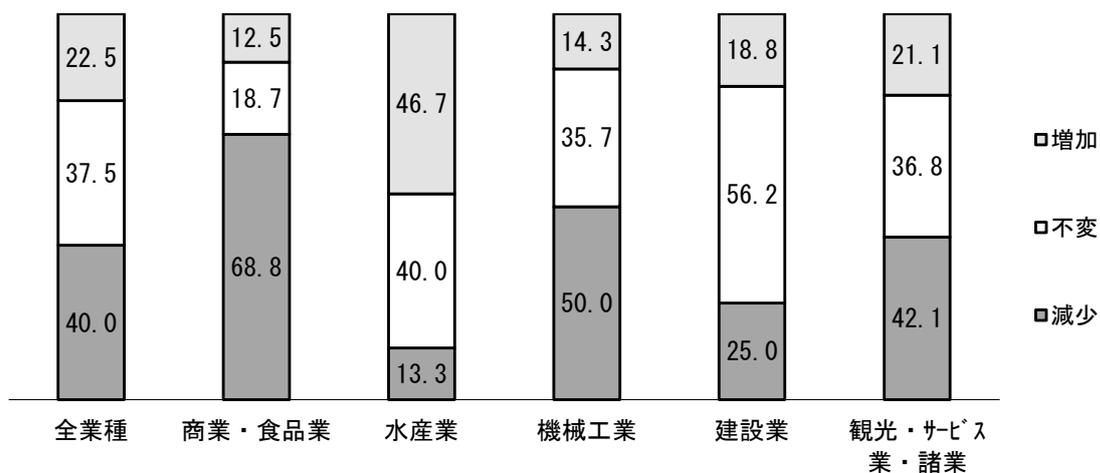


全業種平均DI値▲24.0 [今期の業況(前年同期比▲10.1)より13.9ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】(2022(令和4)年1月～3月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し)

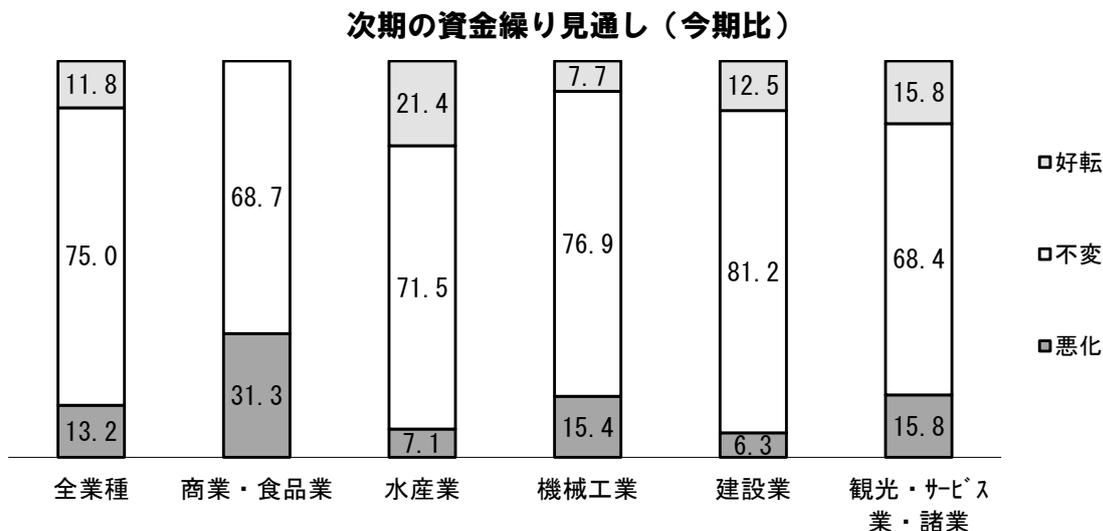
次期の売上高・生産高見通し(今期比)



全業種平均DI値▲17.5 [今期の売上高・生産高(前年同期比▲13.9)より3.6ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】(2021(令和4)年1月～3月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し)



全業種平均DI値 ▲1.4 [今期の資金繰り(前年同期比▲7.6)より6.2ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各指標

		全体	商業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス業 ・諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲10.1	▲56.3	42.9	21.4	12.5	▲52.6
	来期見通し	▲24.0	▲68.8	0.0	▲35.7	0.0	▲15.8
売上・生産 D・I	今期実績	▲13.9	▲37.5	28.6	7.1	0.0	▲52.6
	来期見通し	▲17.5	▲56.3	33.3	▲35.7	▲6.3	▲21.1
在庫 D・I	今期実績	6.7	▲6.3	21.4	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲18.9	▲50.0	28.6	0.0	0.0	▲57.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲7.6	▲31.3	14.3	0.0	6.3	▲21.1
	来期見通し	▲1.4	▲31.3	14.3	▲7.7	6.3	0.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	▲1.3	▲23.1	14.3	▲7.1	6.7	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	1.3	0.0	0.0	14.3	0.0	▲5.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。